

第27回宇宙民生利用部会 議事要旨

1. 日時：令和元年10月4日（金） 15：30－17：40

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

（1）委員

中須賀部会長、白坂部会長代理、石田委員、岩崎委員、栗原委員、後藤委員、高山委員、仁藤委員、山本委員

（2）事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

松尾事務局長、行松審議官、吉田参事官、中里参事官

（3）陪席者

内閣官房 情報通信技術（IT）総合戦略室 平井参事官

内閣官房 地理空間情報活用推進室 荒木推進官

内閣府（防災） 有村防災情報通信システム官

国土交通省 国土地理院 地理空間情報企画室 大塚室長

（4）発表者

総務省 国際戦略局 宇宙通信政策課 西室推進官

文部科学省 研究開発局 宇宙開発利用課 原田企画官

経済産業省 製造産業局 宇宙産業室 浅井室長

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 館理事補佐

リモート・センシング技術センター（RESTEC） 経営企画部 坂田部長

4. 議事要旨

（1）概算要求の状況について

□内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省より資料1－1から資料1－5に基づき説明を行い、委員にて議論が行われた。委員から以下のような意見等があった。（以下、○意見・質問等、●回答）

○宇宙関係利用予算について、府省庁別の内訳は提示されているが、目的別、分野別（技術分野・利用分野）、フェーズ別等の集計・分析も必要ではないか。

○令和2年度6月に宇宙基本計画改定を目指しているのであれば、令和2年度予算は改定内容を反映させられるようなフレキシビリティが求められる。

○J-SPARC（ジェイ・スパーク）やTellus（テルース）などの民間支援施策は、知名度が上がりつつあるが、出口戦略、つまりビジネスとしてうまく回りはじめるかどうかは肝であり、初期の需要を作ってあげるところまで支援すべきである。政府が最初のユーザーになるという視点も大事である。

（2）先進光学衛星・先進レーダー衛星について

□文部科学省、JAXA より資料 2 に基づき説明を行い、委員にて議論が行われた。委員から以下のような意見等があった。(以下、○意見・質問等、●回答)

○基幹衛星である ALOS-2、3、4 が複数機同時に軌道上で運用される状況には大きく期待を寄せている。来年いよいよ打上げであるが、利用者からどのような期待が寄せられ、どのような準備をしているか。

●シミュレーションデータの充実を図り、プロモーションを行っている。

○総開発費は巨額なので、説明責任が重要となる。

●実費ベースの利用、研究用との無償利用という 2 つの柱を持ちつつも、運用事業者のビジネスにもつながるよう検討している。

○各府省の利用開拓にも努めてほしい。

○衛星 SAR データによるインフラ変位監視ツールについて、どのような活用方法を想定しているのか。

●JAXA はソフトを複数の商用利用業者に提供し、商用利用業者はそれを自ら利用しても、アルゴリズムを一部改良して商用利用してもよい仕組みとしている。

○ALOS-3、4 は観測幅が広いので、ベースマップの更新頻度も高くなり、時系列変化ビジネスとしての利用が見込まれるが、ベンチャーとの連携などは検討されているか。

●今後の検討事項。従来の「観測データを売る」という形式以外の利用拡大の取組を検討していきたい。

(3) 衛星データ利活用の拡大に向けた取組について

□内閣府、総務省、経済産業省、リモート・センシング技術センターより資料 3-1 から資料 3-4 に基づき説明を行い、委員にて議論が行われた。委員から以下のような意見等があった。(以下、○意見・質問等、●回答)

(内閣府の説明をうけて)

○過去に採択した実証事業案件をフォローアップして、具体のビジネスとしての次のステップにつながるような取組を考えていただきたい。

○実証事業は様々なテーマがあるが、テーマ間で共通する課題を抽出し、横展開することも必要ではないか。

(経済産業省の説明をうけて)

○Tellus を他省庁事業の採択者で使うような連携や、農業利用が進んで農林水産省と連携する等の連携が進むとよい。

○現時点で Tellus 利用者から更なる要望や課題が寄せられているか。

●公開されている衛星データのカバーエリアの増や、撮影頻度の増等が期待されている。

○データ利用に関する人材育成も重要。データサイエンティストに加え、ユーザーに利用イメージをビジュアル的に伝えられるような人材も重要。

○今まで衛星以外の手法で行っていたことを、衛星データ利用に切り替えることは非常に難しい。政府機関での衛星データ利用が進むことが望ましい。また、今まで衛星データと関わってこなかった分野と掛け合わせることによる横の広がりが重要である。

（リモート・センシング技術センターの説明をうけて）

○地方による利用を開拓していきたい。自治体は首長が利用しようと判断すれば一気に利用が進む。地方毎に農産物をテーマにするような特徴も出始めており、今後の一層の利用拡大に期待する。

○海外にデータ解析サービスを売り込む際の課題は何か。

●高解像度データの購入が途上国にとって負担になる課題があり、オープンデータもうまく利用する作り込みが必要になってくる。

以 上